



令和 6 年 9 月 26 日

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (通称 J-PEAKS)」の取組に関する報告

日本全体の研究力を牽引する地域中核拠点として、昨年度、広島大学は「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(通称 J-PEAKS)」に採択されました。

本学は、半導体・超物質、再生・細胞医療・創薬の融合研究領域を中心に、世界的に稀少な紫外線(UV)領域の放射光による可視化を基盤として、研究力向上戦略を推進します。また、「人・知・資源の好循環」のハブとして異分野融合エコシステムを形成し、国際頭脳循環・産業集積を促進します。

地域中核拠点の形成に向けた本学のさまざまな取組みについて、最新情報をお知らせします。

(1) 食の安全に関わる新しい技術や手法の導入時における倫理的・法的問題、社会的課題に関するセミナーの開催

本学は J-PEAKS での取組みを通じて強力に異分野融合・連携研究を進めています。これらの研究は革新的な成果をもたらすと同時に、新たな倫理的・法的・社会的課題を生み出す可能性があります。ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)とよばれる、このような課題に取り組むため、本学は令和 4 年度に共創科学基盤センターを設置し、持続可能な社会の実現に向けた研究を推進しています。

この度、同センター主催のセミナー「食のリスクを正しく理解するための科学コミュニケーション」を開催します。講演者の山崎毅氏は「NPO 法人 食の安全と安心を科学する会」の理事長であり、全国各地で食にまつわる講演、イベントなどを積極的に開催されています。食のリスクについて関心をお持ちの方々のご参加をお待ちしています。

- ・開催日時：10 月 10 日(木) 16:30~18:00
- ・講演者：山崎 毅氏(NPO 法人食の安全と安心を科学する会 理事長)
- ・開催形式：対面・オンラインのハイブリッド形式
- ・場所：本学フェニックス国際センター ミライクリエ多目的スペース
- ・定員：対面 60 名・オンラインは制限なし
- ・申込：本学共創科学基盤センターHPより申込

(2) 科学新聞(2024 年 8 月 30 日付)掲載ータンパク質と生体膜の相互作用を放射光により可視化ー

生体膜に結合するタンパク質は疾患の発症や物質輸送など多岐にわたる生命現象に関わっていますが、これまで、生体膜とタンパク質の動的な相互作用の可視化は困難でした。本学放射光科学研究所の松尾光一准教授と本学大学院先進理工系科学研究科の橋本聡さん(大学院生)らは、放射光を利用した真空紫

外円二色性装置を用いることによってこれらの構造変化を分子レベルで解明し、国際学術誌「Analytical Chemistry」（6月22日付）に発表しました。

この度、上記の研究成果が、科学技術を専門に取り扱う新聞「科学新聞」に掲載されました。松尾准教授は同紙上で「今回、構築したシステムによる相互作用の可視化は、これまで重要であったが、解明できなかった様々な生命現象や疾患のメカニズムを分子レベルで理解するのに役立ち、その用途や応用研究は限りなく広い」と述べています。今後のさらなる研究の発展が期待されます。

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）とは？

地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営のもと、他大学との連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力を強化することで、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的としている。Program for Forming Japan's Peak Research Universities の通称。広島大学は2023年度に採択され、2028年度までの6年間で総額55億円の財政支援が予定されている。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室 未来共創科学研究本部 研究戦略部 研究戦略グループ 前田 TEL:082-424-5656 Mail: gakujutu-strategy-gl@office.hiroshima-u.ac.jp

